室生犀星 小説家。天才詩人として出発、自伝的小説で認められ、野性的な人間を描いて飛躍、女性への愛情で完成。

むろうさいせい

帝国憲法発布1889 = 金沢市で老齢の旧加賀藩士と女中の間に生まれ、直後に真言宗住職室生真乗の内縁の妻に貰い子に出され、私生児として届けられた。

日清戦争始・1894 = 5歳：

日清戦争終・1895 = 6歳：養母の不注意で、半年遅れで尋常小学校に入学し、

白馬会・・・1896 = 7歳：真乗の嗣養子となり、室生姓を名乗ったが、身体・学業ともに劣等で、教師にも疎まれ、反抗的になる。

子規句歌革新1898 = 9歳：実父が死去、実母は家を追われ、以後不明。

田中正造直訴1901 = 12歳：貧窮のため高等小学校を中退して、金沢地方裁判所に給仕となる。

上司らに俳句を指導されて投稿するうち、

日露戦争終・1905 = 16歳：

韓国反日暴動1907 = 18歳：*{新声}に投稿した詩が選者の児玉花外に絶賛されたことから、詩人として立つ決意をする。

伊藤博文暗殺1909 = 20歳：退職し、地方紙の記者を転々とした後、

韓国併合・・・1910 = 21歳：初めて上京、北原白秋を訪問、その影響を決定的に受け、東京・金沢間を往復しながら、貧窮と放蕩のなか、詩作に熱中し、

明治天皇没・1912 = 23歳：「青き魚を釣る人」あたりから初期抒情詩の花が開き、

大正政変・・・1913 = 24歳：「ふるさとは遠きにありて思ふもの」の詩句で知られる「小景異情」などが続々発表される。

同じく無名であった萩原朔太郎と親交を結び、

21ヶ条要求・1915 = 26歳：{卓上噴水}を創刊したのに続き、

民本主義・・・1916 = 27歳：詩誌{感情}を刊行するなど、互いに影響を受けあいながら、近代詩の完成に大きな役割を果たす。

それまでに発表した作品を、

本格政党内閣1918 = 29歳：結婚。「抒情小曲集」にまとめ、「愛の詩集」と合わせて天才の名を恣にする。

べつじな条約・1919 = 30歳：詩集「第二愛の詩集」。*自伝的小説「幼年時代」が{中央公論}編集長滝田樗陰に認められ、続けて「性に眼覚める頃」「ある少女の死まで」を発表して、一躍小説家としても認められる。

大暴落・・・1920 = 31歳：「香炉を盗む」「蒼白き巢窟」、詩集「寂しき都会」、

原敬首相暗殺1921 = 32歳：「美しき氷河」「蝙蝠」など、憑かれたように書き続け、

水平社結成・1922 = 33歳：詩集「星より来れる者」「田舎の花」「忘春詩集」、

関東大震災・1923 = 34歳：詩集「青き魚を釣る人」と次々刊行、「旺盛な創作活動を展開した。<関東大震災>後、しばらく帰郷して、

治安維持法・1925 = 36歳：

東洋的な枯淡を求め、

共産党事件・1928 = 39歳：「芭蕉裸記」、

世界恐慌・・・1929 = 40歳：「魚眠洞発句集」などを著すものの、小説には全く見るべきものがなかったが、

満州事変・・・1931 = 42歳：

五一五事件・1932 = 43歳：詩集「鉄集」、

帝人疑獄事件1934 = 45歳：*野性的な人間の生きる姿を描いた「あにいもうと」が第一回文芸懇話会賞を受賞、一転機となり、再び、旺盛な創作活動を開始。同年の「チンドン世界」を皮切りに、「市井鬼もの」による犀星の復活が言われた。

日中戦争始・1937 = 48歳：

日米開戦・・・1941 = 52歳：

創価学会検挙1943 = 54歳：

戦中は王朝に材を得た小説を書いていたが、

敗戦・・・1945 = 56歳：

独立回復・・・1951 = 62歳：

メーデー事件・1952 = 63歳：

生母への思慕と義母への愛憎から発して、女性を深く愛する作家となっていった。

みずからの生い立ちから娘への愛情までを書いた

なべ底不況・1957 = 68歳：「杏っ子」は読売文学賞を受賞して代表作となり、復活の契機となった。

イスタラマ・1958 = 69歳：「わが愛する詩人の伝記」で毎日出版文化賞。

美智子妃・・・1959 = 70歳：野間文芸賞の「かげろふの日記遺文」に結実する。

安保闘争・・・1960 = 71歳：

たいたい病始・1961 = 72歳：

全国総合計画1962 = 73歳：肺癌で没した。